

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 県立常陸大宮高等学校 】

1 実践テーマ	II・IV
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年・71名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名 (保健体育)</p> <p>②行事名 (オリンピック・パラリンピック教育)</p> <p>③その他 (総合的な学習の時間)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名 ()</p> <p>②その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 多様性と国際理解～異文化交流～ 常陸大宮市とタイアップし「パラオ共和国」について学習し、ICT 機器を活用した異文化交流（異文化理解）を行い、相互理解を深め来年の東京オリンピック、パラリンピックを多角的な面でより一層楽しめるようにする。</p> <p>(2) 異文化交流を通して ICT 機器を活用した交流を通して、自身がおもてなしを行うために必要なスキル等に気づきボランティア精神を育み、おもてなしの心を醸成する。</p>
5 取組内容	<p>本校では2年前に、パラリンピック柔道選手の講演・実演を実施した。また、常陸大宮市は、パラオ共和国のホストタウンとして2017年～2020年にかけてパラオ共和国研修生を受け入れてきた。2018年～2019年には事前キャンプとして本校を含めた市内の小・中学校とパラオ共和国選手団と陸上・水泳・柔道・レスリングの競技を通して交流を実施し、2018年～2020年にはパラオフェアに本校商業科が出店するなど多くの交流を行ってきた。また、市とのタイアップとして外務省青年プロジェクトやカウントダウンボード製作やパラオアレンジフード販売などを実施してきた。</p> <p>今回の事業としては常陸大宮市とタイアップし、ICT機器を通して「異文化交流（異文化理解）・おもてなし」を理解し、来年の東京オリンピック、パラリンピックをより一層楽しめるようにする。</p>

＜パラオ共和国にいる元研修生とのTV電話交流の様子＞



<p>6 主な成果</p>	<p>アンケート結果 ○「オリパラの授業が楽しかった」「オリンピックを見に行きたい」などの声が多くあり、興味・関心をもつきっかけを作ることができた。 ○自身が今後必要とするスキルとして「英語力」を挙げる生徒が多く、横断的な教科指導のきっかけとなった。 ○異文化交流を実施したことでパラオ共和国の選手やカルチャーなどに興味・関心をもつことができ、相互理解等を充分成長させることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ICT 機器を活用しTV 電話交流を実施した点。 ○TV 電話交流では、事前に各クラスで意見を集約した質問をビデオ撮りし、データを事前にパラオ共和国元研修生にメール送付していた点。 ○1 学年全員での交流にしたことで、学校活動の少なかった生徒間で他者を理解するなど相互理解の機会を設けた。 ○常陸大宮市とのタイアップにより、現場での生きた教材を活用できた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○日程等が感染症拡大によりなかなか決まらず、学習計画が定まらなかった。 ○ICT 機器を有効活用できない部分があり、課題となった。 ○この事業は体育的活動とだけ結びつけるのではなく、様々な教科と横断的な指導を行うことのできる事業と感じた。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○常陸大宮市と協力させていただき、パラオフフェアなどの校外活動に各学科として参加できる形態で商業科や機械情報科等の参加を行う。 ○市のボランティア（オリパラ）に生徒会として登録しているため諸活動への参加を行う。</p>